

今回も小田原地区市民講座で紹介された、エピソードをご紹介します。

「訪問看護 感動エピソード part3」

1・「人生も直球！

ナイス！ ストライク!!」

ボーリングが大好きで、色々な所で大会に出場しました。
パーフェクト300点を、連続3回達成したこともある、
すごい**セミプロ**さんです。

「人生も直球！
ナイス！ ストライク！！」

“入院はしない！ ここにいる！”と主人が言いました。
点滴や注射，傷の手当，トイレに行く時肩をかす・・・やることが沢山ありました。
手がふるえました。。。でも，

「この人と最期まで家にいたい。私がやるしかない！」
と腹を決めて頑張りました。



“吸引は最後までしないでほしい。

あれは苦しいから・・・”

主人の希望でした。

気管に穴が開いているので声は出せませんでした。

その日の朝も

手を振ったり うなずいて笑ってくれた・・・。

パーフェクトランの笑顔

朝の笑顔

今ここに眠る笑顔

私はずっと忘れない。

あなたは真っ直ぐわたしと最期まで生きてくれました。

わたしを人生のペアに選んでくれてありがとう。

そして、色々な人に支えられたから、

こうしてやって来られました。

先生，看護師さん，本当にありがとうございました。

2・「お義母さん、
ここにいてくれてありがとう」

大きな手術後、
何度も入退院を繰り返しました。
わたしと義妹はほぼ毎日、病院に通い
“もう帰りたい、病院は嫌だ”
と言う義母の思いをよく知っていました。
主人は長男で、13年前に他界しましたが、
その時も往診の先生と、訪問看護さんをお願
いして自宅で看取りました。
この時わたしは
「母をたのむ・・・！」
と主人に頼まれたのです。

義母は、本当の母のように
私によくしてくれました。
明るい人で、
義母を慕う人や友人も大勢いて
わたしは義母が大好きでした。
義母のためなら
何でもしてあげたい
と思っていました。

飲み食いが思うようにできなくなって、
「もう数日の命です」
と宣告されました。

「お義母さん、帰ろう！」
病院の帰り道、一片の迷いなく、
主人と同じ訪問看護ステーションに寄り、
お願いしました。
先生も同じ先生が
すぐに快く引き受けてくださいました。



「お義母さん、ここにいてくれてありがとう」

ベットが入って、家で点滴しました。
無意識のうちに手を伸ばしてチューブが外れたり、
お腹が張って、お下の処置も重要でした。
むくみも出てきて、
マッサージすると気持ちよさそうでした。

強いと判っている薬も、蔭で泣きながら使いました。
意識がもうろうとしていても、義母に会いに、
友人や近所の方々、職場の仲間と大勢来て下さり、
中でも、ひ孫たちのにぎやかな笑い声の中では、
眼を閉じていても顔は微笑んでいました。
1日は短いけれど、濃くてあたたかい毎日。



日曜日で、家族全員がそろうにぎやかな夕方でした。
「じゃあね、また明日ね」「ありがとね」とみんなが声をかけ、
うなずいた・・・
それぞれが自宅に着くころ・・・
義母は、安心したように永遠に眼を閉じたのです。
みんな、涙をぬぐおうともせず、頬をなで、すがりつきました。

「おばあちゃん、私達にちゃんとお別れ言わせてくれたんだね」
「おばあちゃん、ありがとう、ありがとう、ありがとう」
今だけ、泣かせて・・・

最期まで、みんなに気を使ってくれた義母・・・
ここにいてくれてありがとう。

わたしと義妹は介護に悔いはありません。

3・「じいちゃんは、
ずっと自宅にいるよ」

じっとしていても苦しくて、苦しくて・・・それでも救急車は呼ぶなと言われました。
「病院に行こう！」

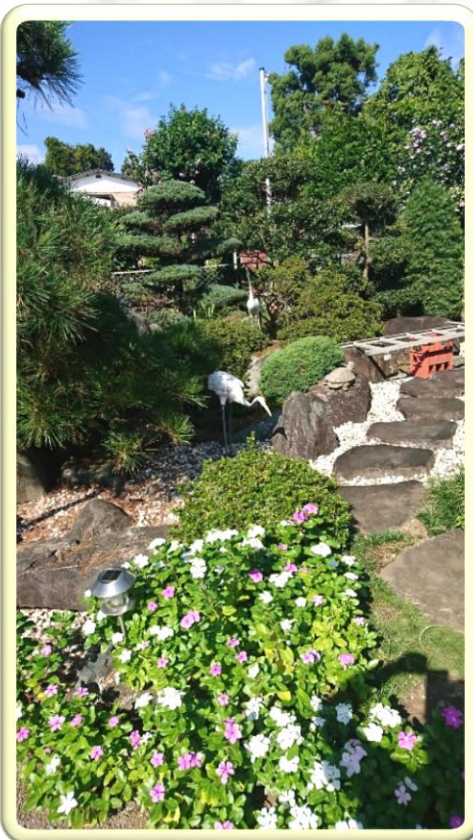
息子さんは、おんぶして自家用車に乗せ、お嫁さんが支えて救急で行きました。
「危なかった、いつ急変してもおかしくない、覚悟するように」と説明されました。
お嫁さんは高齢の奥様を連れて、毎日面会に行かれました。

“家に帰りたい！”

氏は目を閉じて、医師や看護師と口を利かなくなっていました。

「よし、家に帰ろう」「ばあちゃんと一緒にいよう」

息子さんご夫妻の大きな決断でした。



坂の小路を上がると、こだわりの庭
で
鶴と亀が出迎えてくれました。
玄関にはみごとなハイビスカス。

家に入ると、

「おかえりなさい」
奥様のやさしい笑みに包まれました。
奥様と並んで置かれたベッドには、
あたたかく心地よい風が流れます。

お嫁さんが一生懸命考えて作った
のど越しの良い食事を召し上がります。
点滴、血糖のチェック、飲食物の記録、トイレのお世
話・・・
ご家族が当たり前のようになさいます。

奥様は、いつも隣で見守り、
かゆいところに手が届きます。

「じいちゃん、
ずっと自宅に^{ここ}にいるよ」



5人の孫家族が出入りして、
かわいい、かわいい8人目のひ孫を抱くことができました。
「じいちゃん、順番にあと2人ひ孫が誕生するよ・・・」
どの子も、それぞれ唯一無二
・・・されど、確かに、この血は受け継がれ・・・

絶対に譲れない！
^{ここ}自宅に^{わけ}いなければならなかった理由が
そこにありました。

4・「ご家族から訪問看護師に いただいた言葉」

看護師さんから、いよいよお別れが近いと言われたので、手を握ってずっと一方的に話しかけていました。わずか数十分でしたが、貴重で愛おしく、かけがえのない宝物になりました。本当にタイミングよく教えていただいたので、一生忘れられない大切な時間を与えてもらいました。ありがとうございました。

顎を上げるような呼吸。看護師さんは「ありがとうを沢山言っておいて、耳は聞こえているから、ずっと触って、声をかけてあげて。そして、呼吸が止まったら、大往生の瞬間だから、あわてないで時間をみておいてくださいね」と言われました。

私も子供たちも泣きじゃくりながら、声をかけ続けました。息が止まって、見ているとまた息をして、いよいよ大きな息をしてお終いでした。時間をみて、看護師さんに連絡するとすぐに来て（近くで待機していたみたい）、先生も来て下さいました。

「ご家族で看取ったんですよ。」

確認された時間を死亡時刻とします」

と先生が言われ、全てを理解しました。

「ちゃんとお別れできましたか？」と聞かれたので、「はい！」と即答できました。悔いのない看取りが出来ました。

父は歩けないし、点滴があり、自宅で過ごすことにとても心配しましたが、90歳を超えた母の病院通いが大変なので、自宅で看ると決めました。

「ご夫妻で一日でも長く、ここで過ごせるようにお手伝いさせてください」と看護師さんに言われ、いつもきれいにしてくれて、よくやって下さって、母はいつも父の側に座って過ごせました。手を握ったりしていて、こんな姿初めて見ました。本当に家で良かったです。

「えっ？自宅で看取ることなんてできるの？」
と思いましたが、看護師さんが来てくれて、いつでも連絡して聞けて、困ったら来てもらえる。
不安を感じることなく過ごせた。

最後の数日間は
何回も来てくれました。
先生も毎日のように来て下さり、お電話もくださいました。
皆様のおかげで父が望み通り、自宅で看取ることができました。
本当に頭が下がります。
ありがとうございました。

ほとんど食べなくなったり、
じっと寝てるのが多くなり、
死ぬのを待っているようで
辛い・・・と言うと、

看護師さんが
「死ぬのを待っているのでは
なくて、その時まで、思
う通りに生きてもらってい
るんです。聞こえてるし、
全て感じて考えながら
生きておられます」
と言われ気付かされました。
沢山お話して、お礼も言え
たし、安心したと思います。

顔がすごく痩せちゃって
可哀そうだ・・・

と悲しんでいたら、
「違いますよ、身体の良いところを、
全部使って戦っている証です」
と看護師さんに言われ、
そうか・・・頑張っているんだ
と解って、とても愛おしくなり、
くぼんだ頬を思わず撫でました。

退院後7日で亡くなりました。
傷があって点滴もあって、
毎日看護師さんが
何回も来てくれました。
忙しく時間が過ぎて、精一杯やっ
たけど亡くなりました。

「これで良かったんだろうか、入
院していたらもっと
生きられたんじゃないか？」
と聞いたら、看護師さんが
「何言ってるんですか、
奥さんがずっとそばにいて、お世
話してもらって、
ここがどんなに大きい病院よりも
最高の特別室でしたよ」
と言って下さり、
これで良かったんだと
モヤモヤが吹っ飛んだ。
ありがたかったお言葉です。

おわりに

私達はご利用者様、ご家族様の暖かい言葉に
元気・勇気づけられ支援させていただいており
ます。

ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。

お知らせ

最後までお読みくださりありがとうございました。
次回は8月頃、「訪問看護感動エピソードpart4」をお届けする予定です。

ご意見、ご感想、今後取り上げてほしいテーマについては
ホームページ「ご相談・お問い合わせ」からお願いいたします。
※お問い合わせ内容には「小部屋」とお書きください。